

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 59

学校名・団体名	岡崎市立三島小学校研究部
コ ー ス	学校支援
活動・研究のテーマ	地域社会のひと、もの、ことを生かした教育課程の深化

1. 活動・研究の意義

「具体的なひと、もの、こと」に直接ふれたり、多様な体験をしたりすることで、より確かな思考力、判断力、表現力を育てることができるのではないかと仮説を立て、昨年度、「地域社会のひと、もの、ことを生かした教育課程の創造」をテーマに掲げて研究・活動を行った。幸い、「第17回ちゅうでん教育振興助成」を受けることができ、充実した取組をすることができた。

今年度は、昨年度の成果を生かし発展させるため、地域社会のひと、もの、ことを生かした教育課程の充実と深化を図り、特色ある学校づくり、教育課程づくりを進めていく。

2. 活動報告

(1) みどりが池の整備と活用

①児童委員会（環境委員会）による美化活動と護岸等の整備及びベンチの設置

児童と教職員、保護者が協力して、池の整備を進めたことによって、安全で楽しく授業や休み時間に利用できる環境となった。春には、カルガモが飛来してヒナが4羽孵ったり、イシガメが産卵したり、カワセミが頻繁に訪れたりするようになった。



みどりが池で孵った4羽のカルガモのヒナと親鳥

②みどりが池の授業での利用

ア) 2年生活科「ザリガニつり」

6月に2年3クラスが実施した。全員の児童が1匹以上のザリガニを釣ることができた。その学びについて、A児は次のような作文を書いた。

ザリガニつりをしたよ

ぼくは、わくわくしてあみとペットボトルをもって学校へ行きました。

みどりが池に行くと、はじめは、あみだけでとっていました。少しもつれなくてがっかりしていると、ちかくの友だちが

「このつりざおだといっぱいとれるよ。」

とかしてくれました。池の中に入ると、すぐにつれて、カメまでつれてびっくりしました。ザリガニもカメもさおについていたちくわが気に入ったのか、何かいもつれてすごうれしかったです。また友だちときょうりよくしてザリガニつりをしたいです。

イ) 5年国語「俳句づくり」（講師：岡崎市民俳句会のみなさん）

12月に10人の地域講師（岡崎市民俳句会の皆さん）を招いて、5年2クラスが実施した。68人の児童が10グループに分かれて、講師の方と一緒にみどりが池を中心とした校内を巡り、俳句を一人5句ずつつくった。B児は次のような感想を書いて学びをまとめた。

楽しかった俳句の会

ぼくは、俳句の会を通して、俳句を作るのに真剣に考えたり、自然を見ながら、自分の心を落ちつかせたりして、五個の俳句を作りました。この経験を通して、さらに俳句に親しむことができました。これからも作りたいです。俳句の会に来てくださった先生方にすごく感謝しています。

(2) 福祉教育(総合学習)の充実・深化

① 3年「学区のすてきな人見つけた」

2月に11人の地域講師を招いて、3年2クラスが実施した。講師の方々から話を聞いたり、質問したりすることで、地域社会のために活動されている方の願いや喜び、苦勞などを知ることができた。

② 4年「県立岡崎盲学校との交流」

4年2クラスが実施した。11月に第1回交流会を開催し、自己紹介をしあった。C児は「これから交流で楽しんでもらえる遊びを考えていきたい」と、3学期に行われる第2回交流会に向けて意欲を高めた。12月には、盲学校の3人の先生を講師として招き、福祉実践教室を実施した。アイマスク体験などを経験したD児は、「まわりに何があるか、ある物が分からないからとてもこわかったです。手引をするときは、何があるかだけでなく、左や右と言ってどこにあるのかを説明することも必要だと知りました」とワークシートに記した。2月に第2回交流会を開始し、4年児童が考案・準備した各種ゲームを通して、盲学校の子たちと一緒に楽しく過ごすことができた。E児は「いろんな人と交流するときは、何かをしてあげるんじゃないなくて、いっしょにやるというように考えてやっていこうにしたいです」とワークシートに記し、体験を通して学びを深めたことを表現していた。

③ 5年「福祉教育プログラム」

7月に7回、11月に6回、計13回の授業を、聴覚障害者の方、要約筆記ボランティアの方、身体障害者の方などを講師として招いて実施した。F児は、福祉教育プログラム終了後、次のような振り返りの作文を書いた。

耳の聞こえない人へのコミュニケーション方法

耳の聞こえない人に対するコミュニケーション方法は、筆談、口話、手話、身ぶりや機器の使用があることが、この福祉の勉強を通してわかりました。その中でもぼくは、筆談がわかりやすいと思いました。しかし、耳の聞こえない人の中には話すことができず、手話を使う人がいることもわかりました。

もしも、これから耳の聞こえない人に会ったら、この勉強を生かして、上手にコミュニケーションを取れるようにしたいです。

④ 6年「高齢者とのふれあい交流」

6年2学級が、3月上旬に高齢者福祉施設を訪問して実施する。

(3)「教育課程編成(カリキュラム・マネジメント)」に関する教員研修と先進校視察

①教員研修

外部から講師を招いて、11回の研修会(国語、算数、社会、理科、音楽、図工、体育、道徳、ICT、心理・児童理解、プログラミング教育)、計21回の研究授業を実施した。

②先進校視察

本年度は、お茶の水女大附属小、広島大附属東雲小、信州大附属松本小、奈良女大附属小、大教大附属特支学校・天王寺小の計6校に職員を派遣した。話し合いの司会を子供が務め学校、子供の認識の質を高めるために教師が資料を活用して導く学校など、様々な授業の在り方を参観し、全教職員でその情報を共有した。それをもとに本校の授業や教育課程の質を高めた。

3. 取組の成果

上記の取組によって、これから求められる授業や教育課程の在り方について、実践と研究を深めてきた。その結果、本年度の「教育活動アンケート(A~Dの4段階)」において、「授業での先生の質問や説明はわかりやすい」(児童回答)という項目でA・B評価が94.2%と高評価となった。また、「学校は特色ある学校づくりに努めている」(保護者回答)という項目でもA・B評価が95.2%と高評価を得ることができた。



「学区のすてきな人」から話を聞く3年児童



講師の方の助言を得て車椅子体験をする5年児